実践テーマ「学習到達目標を児童生徒や保護者と共有する「CAN-DOリスト」の活用」

新得町立富村牛小中学校
（前期課程）

第５学年　Lesson4　This is my dream day

P

〔単元の目標〕
・時刻、日課、頻度を表す簡単な語句を聞き取ることができる。
・自身の理想の一日の過ごし方について、日課や習慣を表す語句をICTにまとめ、発表することができる。

D

〔単元の目標の達成に向けた手立て〕

	手立て	資料
①	CAN-DOリストの内容を児童と確認し、目的意識をもたせることで、活動への動機付けにつなげる。	
②	「自身の理想の１日の過ごし方」を発表するための表現方法を視覚的に捉えることができるよう、学習活動に適したICTを活用し、児童が見通しをもち、学習できるよう学習環境を整える。	
③	ICTで語句を並べる活動を行うなど、児童の実態に合わせた活動の工夫をする。	

C

〔単元の目標の達成状況〕
・CAN-DOリストを活用することにより、目的意識を維持しながら学習活動に取り組む児童の姿が見られた。
・パフォーマンステストでは、本単元で扱った語句を聞き取って、質問に答えたり、発表したりすることができた。
・ICTを用いて、自分の伝えたいことを感覚的にまとめることで、抵抗感を感じることなく、発表原稿づくりに取り組んでいた。

A

〔改善の方向性〕
・学習した内容を、場面に応じて、適切な語句を選択しながら使えるよう、児童の実態や生活に適した言語活動の充実を図る必要がある。

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

①CAN-DOリストの内容を児童と確認し、目的意識をもたせることで、活動への動機付けにつなげる。

〔児童の活動〕	〔教師の指導〕	〔工夫点〕
○この単元の終末の活動に取り組む時までに、<u>自分は何ができるようになっているかをイメージし</u>、目的をもって学習に取り組む。	○本単元では、「どれくらい」や「何をする」といった日常の会話に関わる語句を扱い、教科書の本文を参考に、普段の生活と関連付けた活動を行う。	○児童の学校生活の一場面を用いて、その場面や自分の伝えたい事柄と語句を結びつけるよう場面設定を工夫した。
○単元の終末の活動に向けてCAN-DOリストの内容と自身の理解度を比較し、何ができて、何が足りていないのか確認するとともに、パフォーマンステストに向けて活動を進める。	○話すこと（やりとり）の活動では、自己評価と他者評価を受けて、客観的に自分がどの程度理解できているか把握できるよう、時間を設ける。	○児童の理解度を踏まえ、具体的に何を伝えることができて、どんなことが相手に伝わったのか知ることができる他者評価の活動を設定した。

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

①CAN-DOリストの内容を児童と確認し、目的意識をもたせることで、活動への動機付けにつなげる。

○第５学年から第９学年までを見通した義務教育学校としてのCAN-DOリスト

学年終了時到達目標を作成
→第５学年から第９学年までを１つにまとめ、系統性を重視

聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
5年生修了時到達目標				
他者のことを知るために、誕生日や自己紹介で用いる簡単な語句（好きな食べ物、好きなスポーツなどを説明する語句）を聞き取ることができる。 曜日や月日、日課など日常会話で必要な語句や基本的な表現を聞き取ることができ	アルファベットの大文字と小文字の特徴を捉えてその名称を読むことができる。 人物の特徴を表す語句やキャラクターが得意なことを表す表現を読んで理解することができる。	相手のことを知るために、好きな食べ物や動物、スポーツなどについて尋ねることができる。 自分のことを知ってもらうために、相手に目的を持った語句を用いて、発表および質問することができる。	相手に自分の伝えたいことを理解してもらうために、これまでの学習で身につけた語句を用いながら発表することができる。 相手に自分の伝えたいことを理解してもらうために、話す順序や話すスピード、使う語句を工	英語の決まりを用いて、アルファベットを4線に書き写すことができる。 音声で十分に慣れ親しんだ語句を適切な場面で、必要に応じて書き写し、表現することができる。
聞くこと				
友達の考えや思い、内容についての根拠解することができる。 将来の夢について話を聞いて基本的な表ることができる。				
聞くこと				
はっきり話してもらや持ち物の連絡などなことを聞いて、理ができる。 はっきり話してもら手が伝えたいことやことを理解すること				
聞くこと				
はっきりと話してもらえば、短いスピーチや説明のあらましや大事な部分を理解することができる。 活動のやり方などの説明や指示を聞いて、適切に応じることができる。	手紙などの文章を読んで、書き手の意向(伝えたいこと)を理解することができる。 ポスターなどを読んで、自分に必要な情報を読み取ることができる。	知らない語句があっても別の表現を使ったりしながら会話を続けることができる。 教科書の題材について知っていることや読んだ内容の感想などを伝えることができる。	身近なものや人物について、その特徴などを即興で相手に説明することができる。 メモをもとに、大事なことを落とさずに相手に伝えることができる。 読んだことの内容について、絵や図などを参考にしながら、相手に伝えることができる。	考えを整理して、まとまりのあるスピーチ原稿を書くことができる。 自分の経験や感想を読み手にわかりやすく書くことができる。 教科書の文章に、自分で考えた英文を加えて書き、話を発展させることができる。
9年生修了時到達目標				
聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
社会的な話題であっても、はっきりと説明されれば、要点を理解することができる。 自分の考えと比較しながら、話し手の考えを理解することができる。	社会的な話題の文章を読んで、書き手がもっとも伝えたい大事な部分を理解することができる。 物語や説明を読んで、物事の順序や大切な部分を理解しながら、内容を理解することができる。	わからなかったことなどを聞き返したりしながら会話を続けることができる。 社会的な話題であっても、準備をすれば考えたことや感じたことなどを述べ合うことができる。	準備をすれば、聞き手を説得するスピーチやプレゼンテーションを行うことができる。 さまざまな話題について、即興で自分の考えを述べることができる。 教科書の内容について、自分で調べたことを加えるなどして、事実や感想を述べることができる。	理由や例をあげて、相手に説明する短い文章を書くことができる。 構成を考えて、読み手にわかりやすいまとまりのある文章を書くことができる。 聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えを書くことができる。

	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	ALTとの連携
Lesson4	時刻、日課、頻度を表す簡単な語句を聞き取ることができる。		一日の過ごし方について、簡単な語句を用いて伝え合うことができる	自身の理想の一日の過ごし方について、日課や習慣を表す語句をタブレットでまとめ、発表することができる。		

単元ごとに内容項目を設定
→各単元につき、３つから４つ設定
→特に、重視する項目には色付け
→各領域に加え、AETとの連携の項目を設定
　AETに依頼する作成物や引継ぎに活用

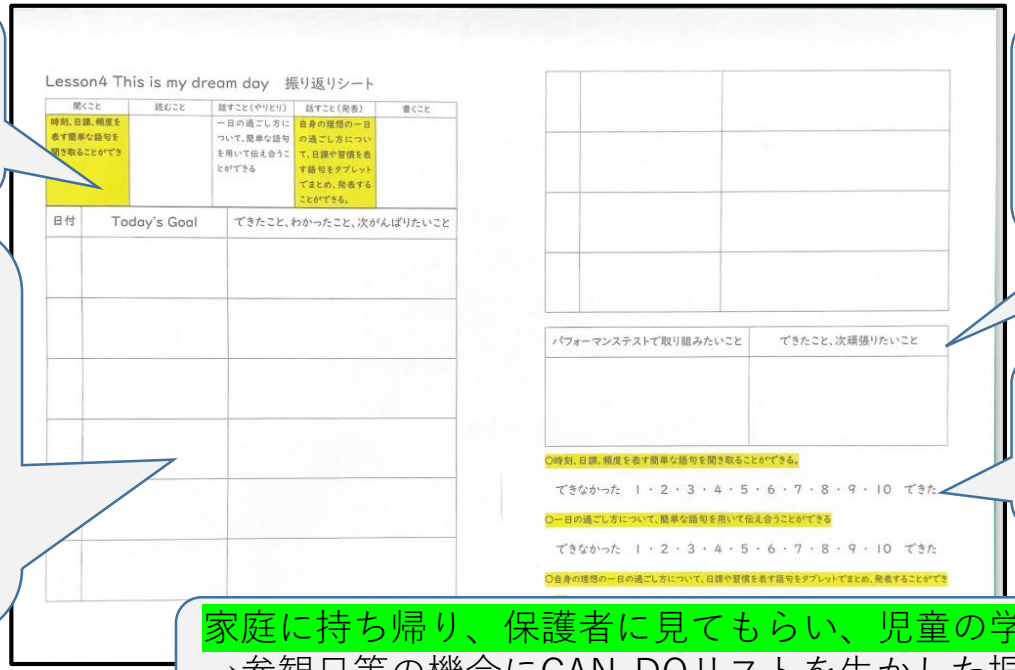
単元の目標の達成に向けた手立ての具体

①CAN-DOリストの内容を児童と確認し、目的意識をもたせることで、活動への動機付けにつなげる。

○CAN-DOリストを生かした振り返りシートの作成とその運用について

CAN-DOリストから引用した項目を共有。
→具体的な姿の「見える化」

CAN-DOリストと現在の自分の姿を照らし合わせて、「毎時間提示されるToday's Goalとできたこと、わかったこと、次時までに頑張りたいこと」を記入する。



Lesson4 This is my dream day　振り返りシート

聞くこと	読むこと	話すこと(やりとり)	話すこと(発表)	書くこと
時刻、日課、頻度を表す簡単な語句を聞き取ることができ		一日の過ごし方について、簡単な語句を用いて伝え合うことができる	自身の理想の一日の過ごし方について、日課や習慣を表す語句をタブレットでまとめ、発表することができる。	

日付	Today's Goal	できたこと、わかったこと、次がんばりたいこと

パフォーマンステストで取り組みたいこと	できたこと、次頑張りたいこと

○時刻、日課、頻度を表す簡単な語句を聞き取ることができる。
できなかった　1・2・3・4・5・6・7・8・9・10　できた
○一日の過ごし方について、簡単な語句を用いて伝え合うことができる
できなかった　1・2・3・4・5・6・7・8・9・10　できた
○自身の理想の一日の過ごし方について、日課や習慣を表す語句をタブレットでまとめ、発表することができ

これまでの取組を想起し、パフォーマンステストでの目標やできたことを記入

CAN-DOリストの項目について、10段階の自己評価を行う。

家庭に持ち帰り、保護者に見てもらい、児童の学習状況の共有する。
→参観日等の機会にCAN-DOリストを生かした振り返りシートに基づき、児童の学習状況や学校の取組についての感想、意見交流する。

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

①CAN-DOリストの内容を児童と確認し、目的意識をもたせることで、活動への動機付けにつなげる。

○CAN-DOリストを生かした振り返りシートの作成とその運用について

【想定された課題点と対策】

	CAN-DOリストの項目と正対した学習活動	家庭への共有とその有用性	多様な学習者へのアプローチ
課題点	CAN-DOリストに記載した内容に正対している学習活動を行い、児童がそれを実感できるような工夫が必要である。	CAN-DOリストを配付するだけで、その見方や有用性を説明できていないことから、授業のねらいを明確にした指導、学校が推進している英語教育について理解を促す取組を推進する必要がある。	児童の習熟度や言語習得に差がある場合、CAN-DOリストに示された項目達成までに個に応じたプロセスが必要である。
対策	振り返りシートにCAN-DOリストの項目を記載し、児童が行った学習活動はどの項目に関わるものだったか理解できるようにするとともに、CAN-DOリストの達成に向け、今、できていること、不十分なことを明確にする。	単元終了後、児童が記入した振り返りシートを家庭へ返却し、これまでの取組と学習内容について理解してもらう。 参観日等の機会に外国語科の授業を通した、児童の変容について協議する。	パフォーマンステストへ向けて、これまでの学習活動や現在の自分の学習状況に応じて、児童が自分で学習計画を立て、活動する時間を単元の後半に位置付け、教師が個別に支援が必要な児童のサポートができるようにする。

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

②「自身の理想の１日の過ごし方」を発表するための表現方法を視覚的に捉えることができるよう、学習活動に適したICTを活用し、児童が見通しをもち、学習できるよう学習環境を整える。

〔児童の活動〕	〔教師の指導〕	〔工夫点〕
○ICTを活用し、文を構成するために必要な語句をグループ分けする。	○「だれが」「どれくらい」など、児童の理解度に合わせた語句を用いて、そのグループにどのような言葉が当てはまるか考えさせる。	○そのグループに属している語句を意味が通じるように順に組み合わせることで文を作ることができるよう配慮した。
○自分の理想の１日の過ごし方が伝わるよう、ICTを活用し、語句を並び替えて、発表原稿を作成する。	○児童自身が設定したゴールに向けて、児童のペースで原稿を作成し、発表練習をさせる。	○ICTでリアルタイムにクラスメイトの作成物や教師の手本を見ながら、自身の活動を進められるよう工夫した。

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

②「自身の理想の１日の過ごし方」を発表するための表現方法を視覚的に捉えることができるよう、学習活動に適したICTを活用し、児童が見通しをもち、学習できるよう学習環境を整える。

○児童が自ら見通しをもって学習を進める方法とPadletを用いた視覚的支援

全７時間のうち第５～７時を「取り組み方を選択し、主体的に学習する時間」として設定

○学習理解度に差がある場合でも自己の設定した目標や進め方で主体的に学習に向き合うことができた。

○CAN-DOリストの項目と自己の理解度を比較し、どう取り組んでいくか調整しようとすることができた。

CAN-DOリストに「日課や習慣を表す語句をICTでまとめ」と示されている。→Padletを活用

○視覚的に語句を捉えられるよう学習した表現や語句をまとめたシートと児童が作業するシートを用意

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

③ICTで語句を並べる活動を行うなど、児童の実態に合わせた活動の工夫をする。

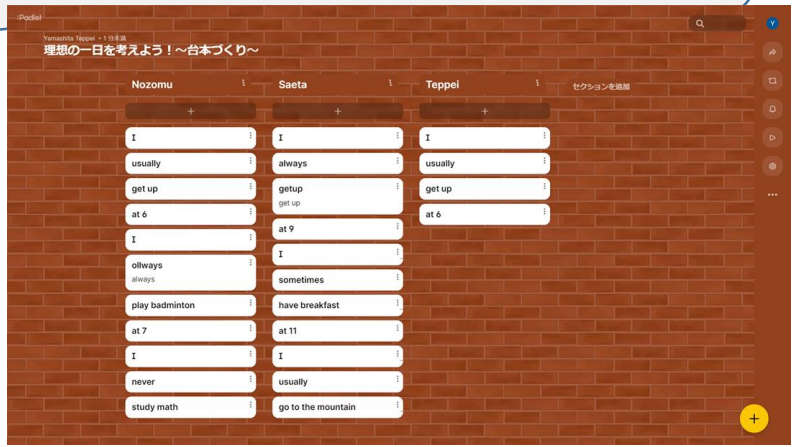
〔児童の活動〕	〔教師の指導〕	〔工夫点〕
○「書いて文を作る」活動ではなく、<u>感覚的に「語句を並べて文を作る」活動</u>を通して、文構造を視覚的に理解する。	○ICTで学習した表現や内容をまとめたシートを作成し、今まで学習した内容を参考にしながら文作りをさせる。	○書くことに抵抗感がある児童でも文を感覚的に作ることができるようシンプルなシートを作成した。
○教科書の本文を参考に語句を並べ変えて自分のことを説明した文を作る。	○それぞれの語句がどのような役割を果たしているかを明確にして、それらが文を構成していることを意識させる。	○音声として文を捉えるだけでなく、文がどのように構成されているか児童自身が実感できるような作業を取り入れた。

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

③ICTで語句を並べる活動を行うなど、児童の実態に合わせた活動の工夫をする。

○Padletを用いたCAN-DOリストの項目と正対した学習活動

○学習到達目標の達成に向けた学習活動の設定
→「自分の理想の１日の過ごし方について、日課や習慣を表す語句をICTでまとめ、発表することができる。」を達成するために書くことを行わずに、感覚的に文の構成を理解できるような学習活動を設定した。



○児童がPadletに自分のことをまとめているシート
→他のクラスメイトの進捗状況や、教師の見本をリアルタイムに確認しながら、学習が進められる。

実践を経た変容について（児童の振り返りシートから）

	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）
Lesson4	時刻、日課、頻度を表す簡単な語句を聞き取ることができる。		一日の過ごし方について、簡単な語句を用いて伝え合うことができる	自身の理想の一日の過ごし方について、日課や習慣を表す語句をタブレットでまとめ、発表することができる。

記入しているときの様子

CAN-DOリストを見て、「これはできるようになったと思う！」「ここはまだちょっと難しいな・・・。」といった自己分析ができていた。

実践前と比べて・・・

○「～ができた。」や「～が分かった。」のみの記述だった。
→CAN-DOリストに基づき、具体的に変容を自己評価することができた。
○単元内外で学んだことのつながりを感じられなかった。
→今まで学習したことを踏まえて、自己の成長を自覚することができた。

できたこと、わかったこと、次がんばりたいこと

どれぐらい、などを、たくさん、いえた。くわしく自分のしていることを、いえた。

・「どれぐらい」を使って、理想の1日を発表する事ができた。
・理想の1日の時間を言う事ができた。

実践を経た変容について（保護者との交流から）

学校

○初めて何をやっているかを知ることができた。
○「何ができるようになるか」という見方がシンプルで分かりやすかった。
○家庭での話題になった。
○次の学年では何をするかを知って、安心感があった。
○ALTの先生が何しているのかが分かった。

児童

家庭

本実践を通して

CAN-DOリストを用いた**家庭と児童と授業をつなげる**取組を通して、保護者が学校の英語教育について理解を深めるとともに、学校への**安心感**をもったことにより、学校と家庭の連携を強化することできた。

今後に向けて

ＣＡＮ－ＤＯリストを児童や保護者と共有等、ＣＡＮ－ＤＯリスト活用した取組の検証改善を進め、学校の英語教育の推進を図っていく。